

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)案

平成30年1月17日

協議会名： 富山県生活路線バス協議会

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
富山地方鉄道株式会社	滑川 起点:富山駅前 終点:滑川駅前	ICカードの普及により定期外収入の6割がカード利用となった。新庄・針原地区からの利用者が多い。運輸収入は減少した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 今年度の利用者数は、89,575人で前年度比78%となり、利用者が減少した。	区間利用者のためダイヤ全体が適切か更なる検証が必要である。
富山地方鉄道株式会社	猪谷 起点:赤十字病院前 終点:猪谷	ICカードの普及により定期外収入の6割がカード利用となった。大沢野地区からの利用者が多い。運輸収入は微減した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 今年度の利用者数は、121,815人で前年度比78%となり、利用者が減少した。	旧細入地区の過疎化の進展が進むなか、いかに維持運営していくかが課題である。
富山地方鉄道株式会社	富山～新高岡 起点:富山駅前 終点:新高岡駅前	区間利用客の増加により運輸収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 高岡駅止まりを含む今年度の利用者数は、210,356人で前年度比82%となり、利用者が減少した。	乗降調査では延伸区間の利用者が少なく、利用実態に見合った検証が必要である。
富山地方鉄道株式会社	富山～小杉 起点:富山駅前 終点:小杉駅前	ICカードの普及により定期外収入の6割がカード利用となった。呉羽地区からの利用者や沿線学校の多い。運輸収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 今年度の利用者数は、97,047前年度比103%となり、利用者が増加した。	通学定期利用の減少により数値が落ち込んでいる。沿線の学校に通学する利用者増加に努めるため、ダイヤの見直しや定期券施策を検討する。
富山地方鉄道株式会社	山田 起点:富山駅前 終点:山田行政センター	ICカードの普及により定期外収入の6割がカード利用となった。婦中地区からの利用者が多い。運輸収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 今年度の利用者数は、91,495人で前年度比84%となり、利用者が減少した。	旧山田地区の過疎化の進展もあり、いかに維持運営していくかが課題である。
富山地方鉄道株式会社	ファボーレ経由萩の島 起点:富山駅前 終点:富山駅前	ICカードの普及により定期外収入の6割がカード利用となった。ショッピングセンター利用客が多い。運輸収入は減少した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 今年度の利用者数は、64,637人で前年度比84%となり、利用者が減少した。	ショッピングセンターへの利用者に利便性の高い運行を提供する。
富山地方鉄道株式会社	富山国際大学(市民病院経由) 富山国際大学(開発経由) 起点:富山駅前 終点:富山国際大学	ICカードの普及により定期外収入の6割がカード利用となった。沿線学校の利用者や富山市南部地区の利用者が多い。運輸収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A 今年度の利用者数は、188,865人で前年度比108%となり、利用者が増加した。	沿線の学校に通学する利用者増加に努めるため、ダイヤの見直しや定期券施策を検討する。

富山地方鉄道株式会社	熊野経由八尾 起点:富山駅前 終点:八尾鏡町	ICカードの普及により定期外収入の6割がカード利用となった。婦中地区からの利用者が多い。運輸収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	今年度の利用者数は、180,345人で前年度比87%となり、利用者が減少した。	ダイヤが利用実態に見合っているか更なる検証が必要である。
富山地方鉄道株式会社	城端線 起点:富山駅前 終点:城端行政センター前	砺波市、南砺市地区から富山市中心部への通勤・通学利用者の利便のため、平日4往復運行し利用者は横ばい傾向にある。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は、113,430人で前年度比100%となり、利用者は前年並みだった。	運賃の見直しによる収支バランスの改善が必要である。
加越能バス株式会社	脇 起点:高岡駅前 終点:脇	氷見中田線を統合し利用実態にみあった運行体系に見直し利用人員・運送収入とも増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用数は162,311人であり前年度比約137%と増加した。	現在の運行回数を維持しつつ、公共交通への利用促進に取り組む。
加越能バス株式会社	守山経由氷見 起点:高岡駅前 終点:氷見市民病院	ダイヤの見直しを図り運行体系を見直したことにより、運送収入は減少したが収支は改善した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	運行回数を見直したため、今年度の利用者数は68,435人であり、前年度比73.5%と減少しているが、1運行あたりの利用者数は130.3%と増加している。	現在の運行回数を維持しつつ、公共交通への利用促進に取り組む。
加越能バス株式会社	新高岡守山経由氷見 起点:済生会病院 終点:氷見市民病院	ダイヤの見直しを図り運行体系を見直したことにより、運送収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は147,716人であり、前年度比103%と増加している。	現在の運行回数を維持しつつ、公共交通への利用促進に取り組む。
加越能バス株式会社	伏木経由氷見 起点:済生会病院 終点:氷見市民病院	沿線市と連携し潜在的な利用者の掘り起こしを行い、更に利用実態に見合った運行体系に見直し運送収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は48,214人であり、前年度比約105%と増加しており、利用者数の維持・向上が図られている。	沿線市と連携し潜在的な利用者の掘り起こしを行い、今後も収支改善に努める。
加越能バス株式会社	高岡ふしき病院経由氷見 起点:済生会病院 終点:氷見市民病院	沿線市と連携し潜在的な利用者の掘り起こしを行ったが運送収入は微減となった。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	今年度の利用者数は44,102人であり、前年度比約98.2%と減少した。	運行体系の見直しや沿線市と連携し潜在的な利用者の掘り起こしや沿線施設へのPRを行い、今後も収支改善に努める。
加越能バス株式会社	仏生寺 起点:済生会病院 終点:氷見市民病院	沿線市と連携し潜在的な利用者の掘り起こしを行ったが運送収入は減少となった。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	今年度の利用者数は、87,557人であり、前年度比約79%減少した。	沿線市と連携し沿線の学校などへ利便性をPRし、潜在的な利用者の掘り起こしを行い、収支改善に努める。
加越能バス株式会社	石動 起点:済生会病院 終点:石動駅前	沿線市と連携し乗り換えなしの利便性をPRし、潜在的な利用者の掘り起こしを行ったが運送収入は横ばいであった。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は、57,999人であり、前年度と比べて横ばいであった。	沿線市と連携し沿線の学校などへ利便性をPRし、潜在的な利用者の掘り起こしを行い、収支改善に努める。
加越能バス株式会社	済生会・中田団地 起点:高岡駅南口 終点:中田中学校前	運行系統・ダイヤの見直し、潜在的な利用者の掘り起こしを行い運送収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は44,346人であり、前年度比111%と増加した。	沿線市と連携し潜在的な利用者の掘り起こしを行い、今後も収支改善に努める。

加越能バス株式会社	石瀬・牧野海王丸パーク 起点: 済生会病院 終点: 海王丸パーク	運行系統・ダイヤの見直し、潜在的な利用者の掘り起こしを行ったが運送収入は減少した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	今年度の利用者数は33,540人であり、前年度比85%と減少した。	利用者ニーズに合った運行体系の見直しを行い、収支改善に努める。
加越能バス株式会社	職安・富大附属病院 起点: 職業安定所前 終点: 富山大学附属病院	利用者ニーズにあった運行体系、ダイヤの見直しにより、運送収入は減少したが収支は改善した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	休日を運休とし効率化を図った為、今年度の利用者数は53,116人であり、前年度比約80%と減少したが、1運行あたりの利用者数は120%と増加している。	沿線市と連携し潜在的な利用者の掘り起こしを行う、又、学校行事での利用促進を促し今後も収支改善に努める。
加越能バス株式会社	加越 起点: 石動駅前 終点: 庄川町	高齢者に利用しやすい定期券のPRをした。運送収入は微増した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は43,093人であり、前年度比約103%と増加した。今後も更に利用者維持を図っていく。	利用実態に見合った運行体系の見直しを行う。又、高齢者へのバス利用促進のPRに努め収支改善に努める。
加越能バス株式会社	砺波立野脇 起点: 砺波市役所前 終点: 立野脇	高齢者に利用しやすい定期券のPRをした。運送収入は、横ばいである。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は37,792人であり、前年度比約102%と増加した。利用者数の維持・向上が図られている。	利用実態に見合った運行体系の見直しを行う。又、高齢者へのバス利用促進のPRに努め収支改善に努める。
加越能バス株式会社	城端白川郷 起点: 城端駅前 終点: 白川郷	観光客にも対応した利用促進や企画切符等の販売を継続して行い、運送収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は62,141人であり、前年度比約112%と増加している。今後も更に利用向上を図っていく。	今後も観光客にも対応した利用促進に取り組む。また海外からの旅客増加に対応するよう取り組む。
加越能バス株式会社	庄川町 起点: 高岡駅前 終点: 庄川町	新高岡駅経由とし、高齢者に利用しやすい定期券をPRし、運送収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は80,454人であり、前年度比約116%と増加している。今後も更に利用向上を図っていく。	利用者ニーズに合わせ運行体系の見直し、沿線市と連携し潜在的な利用者の掘り起こしを行い、更なる収支改善に努める。
加越能バス株式会社	小牧 起点: 高岡駅前 終点: 小牧堰堤	潜在的な利用者の掘り起こしを行い、沿線ショッピングセンターへの利便性をPRしたが運送収入は減少した。しかし並行路線と合せると増加となる。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は48,220人である。前年度と比べても約10%減少しているが、並行路線(庄川線)と合せると約5%の増加である。今後も更に利用維持を図っていく。	利用者ニーズに合わせ運行体系の見直し、沿線市と連携し潜在的な利用者の掘り起こしを行い、更なる収支改善に努める。
加越能バス株式会社	戸出団地 起点: 高岡駅前 終点: 砺波総合病院	新高岡駅経由とし、高齢者に利用しやすい定期券をPRし、運送収入は増加した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者数は51,130人である。前年度と比べても横ばいであり、今後も更に利用維持を図っていく。	利用者ニーズに合った運行体系・ダイヤの見直しを行い、運行の効率化を図り収支改善に努める。
加越能バス株式会社	若林 起点: 砺波市役所前 終点: 石動駅前	潜在的な利用者の掘り起こしを行い、高齢者に利用しやすい定期券のPRをしたが運送収入は減少した。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B	今年度の利用者数は27,040人であり、前年度比約96.3%と減少した。	利用実態に見合った運行体系、ダイヤの見直しを行い、また、利用しやすい乗車券を発売することで潜在的な利用者の掘り起こしを行う。又、沿線の学校などへ利用促進のPRに努め収支改善に努める。

西日本ジェイアールバス株式会社	名金 起点:金沢駅 終点:福光駅	ノンステップ車両(新車)を導入し、修繕費・燃料費等の経費削減に努めた。 また、沿線自治体と連携した、利用促進の検討に向けたワーキンググループの実施や、貨客混載の実現に向けた意見交換(自治体、事業者、宅配事業者)、地域イベントへの参加等に取り組んだ。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	金沢市街における観光等によるご利用が堅調であり、利用者数は前年度比117.4%と増加した。	引き続き、ノンステップ車両(新車)を導入し、修繕費・燃料費等の経費削減に努める。 また、モビリティマネジメントの一環として、公共交通の利用促進を目的とした地域イベント等への参加により当該路線の利用促進や沿線地域のPRを図る。
富山地鉄北斗バス株式会社	富山簡保保養センター 起点:富山駅前 終点:富山簡保保養センター	ノンステップバス車両を導入し、修繕費・燃料費等の経費削減に努めた。またICカードの普及や「いきいきパス」の設定等で収支改善が図れた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者は80,938人で前年比101%と増加した。	生産性向上の取組において、関係自治体の取組との連携も図り、利用実態に即したダイヤか検証し、利便性向上に努め利用促進を図る。
富山地鉄北斗バス株式会社	布目経由新港東口 起点:富山駅前 終点:新港東口	ノンステップバス車両を導入し、修繕費・燃料費等の経費削減に努めた。またICカードの普及や「いきいきパス」の設定等で収支改善が図れた。	A	事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	A	今年度の利用者は79,483人で前年比100%となり、前年からは横ばいで推移した。	生産性向上の取組において、関係自治体の取組との連携も図り、利用実態に即したダイヤか検証し、利便性向上に努め利用促進を図る。